



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信) (2019 年 4 月)

「肯定的に見ることの大切さ」



せんりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

新入園児も少しずつ幼稚園の生活に慣れ、表情がほぐれてきました。保護者の方が毎朝、あの手この手で、気持ちを盛り上げて送り出してくださっている様子が目に浮かびます。ご協力ありがとうございます。子どもたちの後姿を見送る保護者の皆様も、柔らかい表情になってきて、嬉しく思います。

今はまだ少し不安げな表情の子や、何をしたらいいのかわからなくて遊びだせずにいる子たちに、先生たちがかける「魔法のような言葉」があちこちから聞こえてきます。

(すぐにママのところに帰れるように) ずっとリュックを背負ったままでいる子に「このままがいいねんね」「すぐに帰れるもんね」「重くなったら教えてね」「リュックをおろすお手伝いするからね」などと、様々な姿を肯定的にとらえ、温かく見守っています。ここは安心できる場所だよ、何でも言っていーよ、泣いてもいいよ、甘えてもいいよの気持ちを、様々な言葉にのせて届けている先生たち。今はとにかく子どもたちの心の安心安定を目指します。豊かな感性や深い学びは、安心安定できる空間でなければ育ちませんから。



私たちは、子どもたちが見せる様々な姿を大人が肯定的に捉えることが、非常に大切なことだと思っています。毎月末にポートフォリオ(ひじりっこファイル)をお渡しします。ポートフォリオには、子どもが育っていると思う写真を選び、どう育とうとしているか何が育っているかを肯定的に解釈し、それを保護者の皆様に伝えていきたいと思っています。

いつも園内研修に来てくださる大妻女子大学の岡健先生は、次のように話されています。

「子どもの育ちは前にしか進みません。子どもが以前にはできていた何かができなくなったように見えるのであれば、それはそれまでにあった力が失われたり弱まったからではなく、**子どもの中でなにかが育ったからと考えるべきです。**そして今できない何かをできるようにしてほしいと思うのであれば、**どういう力が身につけばそれができるようになるかを考えるべきです。**」

私たちは**子どもの育ちを足し算で見えていく**ために、**子どもを肯定的にみとるためのリフレーミング**という研修をしてきました。子どものできないことを課題としてみるのではなく、やろうとしていること育とうとしている力をたくさん見つけてあげることで今育っている力をさらに伸ばしたり次に育てたい力を伸ばしやすい環境づくりや関わりをすることができます。

連休中は東京で開催される保育学会に参加してきます。園長は学会主催のシンポジウムにですが、私は学年主任の鍋野晴香と畑中菜摘と一緒に、ポスター発表をしてきます。テーマは園内研修です。ひじり学園の園内研修は、課題によって様々な方法をとってきました。そこで、培われた保育の質と、保育者同士の同僚性は、全国でも注目されています。昨年、学会からの依頼で公開保育をし、今回は園内研修についてポスター発表の依頼を受けました。また、そこで学んだことを、保育に生かしていきたいと思っています。

.....

ご意見や感想があれば下記アドレスまでどうぞ。(必ずクラスとお名前を書いてくださいね。)

(返信はできないかもしれませんが・・・)

kaede@hijiri.ed.jp